（表３７）

年齢グループ別、月経順・不順別の月経痛有無

(%：月経痛あり２～４の割合、だたし分母が 10 以上の場合)

	年齢グループ AGE											
	20-24		25-29		30-35		35-39		40-44		45-50	
	Q8A		Q8A		Q8A		Q8A		Q8A		Q8A	
	No	Yes	No	Yes	No	Yes	No	Yes	No	Yes	No	Yes
	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N
Q5 月経の順・不順												
Regular	149	154	237	225	346	198	416	168	475	122	415	52
	50.8%		48.7%		36.4%		28.8%		20.4%		11.1%	
Irregular	96	84	102	107	104	68	79	53	89	32	178	36
	46.7%		51.2%		39.5%		40.2%		26.4%		16.8%	
No Mens	5	3	22	24	25	15	12	11	1	8	37	49
			52.2%		37.5%		47.8%				57.0%	

（表３８）

問９：月経痛のための鎮痛剤使用 Q9 AGE

	20-24	25-29	30-35	35-39	40-44	45-50	Total
Yes	253	402	333	281	197	125	1591
	51.32	55.76	44.11	38.02	27.29	17.15	38.25
No	240	319	422	458	525	604	2568
	48.68	44.24	55.89	61.98	72.71	82.85	61.75
Total	493	721	755	739	722	729	4159

Frequency Missing = 71

（表３９）

「鎮痛剤使用ありと答えた例を対象」

問９－１：１回の月経で何日間 Q9_1 AGE

	20-24	25-29	30-35	35-39	40-44	45-50	Total
1 day	98	163	119	110	92	50	632
	39.36	40.65	36.28	39.15	46.70	40.32	40.00
2 days	82	112	88	77	37	30	426
	32.93	27.93	26.83	27.40	18.78	24.19	26.96
3- days	23	34	30	27	12	7	133
	9.24	8.48	9.15	9.61	6.09	5.65	8.42
at times	46	92	91	67	56	37	389
	18.47	22.94	27.74	23.84	28.43	29.84	24.62
Total	249	401	328	281	197	124	1580

Frequency Missing = 2650

（表４０）

問９－２：鎮痛剤の種類 Q9_2_1 AGE (Multiple Answer)

	20-24	25-29	30-35	35-39	40-44	45-50	Total
Prescription	31 12.25	64 15.92	52 15.62	41 14.59	20 10.15	12 9.60	220
OTC	221 87.35	353 87.81	290 87.09	244 86.83	169 85.79	109 87.20	1386
Others	4 1.58	3 0.75	3 0.90	2 0.71	5 2.54	5 4.00	22
Total	253	402	333	281	197	125	

（表４１）

問１０：この半年間で、整理痛のため休んだり仕事量を減らしたか

Q10 AGE

	20-24	25-29	30-35	35-39	40-44	45-50	Total
Yes	172 35.03	261 36.25	234 30.91	215 29.25	154 21.12	99 13.47	1135 27.24
No	319 64.97	459 63.75	523 69.09	520 70.75	575 78.88	636 86.53	3032 72.76
Total	491	720	757	735	729	735	4167

Frequency Missing = 63

（表４２）

「問１０で「はい」と答えた例を対象」

問１０－１：１回の月経で何日間 Q10_1 AGE

	20-24	25-29	30-35	35-39	40-44	45-50	Total
No	63 38.18	139 51.48	109 48.02	116 54.46	93 60.78	61 62.24	581 51.60
Yes	102 61.82	131 48.52	118 51.98	97 45.54	60 39.22	37 37.76	545 48.40
Total	165	270	227	213	153	98	1126

（表４３）

休んだ日数

	20-24	25-29	30-35	35-39	40-44	45-50
N	100	130	117	96	60	36
Mean	3.25	3.00	4.02	4.39	4.32	4.14
Std Dev	2.50	2.38	3.60	3.95	3.68	4.97
Median	3	2	2	3	3	2

（表４４）

問１０－２：この半年間で、仕事量を減らした日があったか Q10_2

	20-24	25-29	30-35	35-39	40-44	45-50	Total
No	53 29.78	50 17.92	32 13.28	36 15.93	40 23.81	31 27.43	242 20.08
Yes	125 70.22	229 82.08	209 86.72	190 84.07	128 76.19	82 72.57	963 79.92
Total	178	279	241	226	168	113	1205

（表４５）

減らした日数 Q10_2_1

	20-24	25-29	30-35	35-39	40-44	45-50
N	119	224	206	186	127	79
Mean	4.34	5.00	5.69	5.47	5.53	5.33
Std Dev	3.69	4.72	5.07	4.06	4.63	5.37
Median	3	4	5	5	4	4

（表４６）

減らした程度 Q10_2_2

	20-24	25-29	30-35	35-39	40-44	45-50	Total
1/4	29	49	50	43	29	20	220
	23.97	21.40	24.04	22.75	22.66	25.00	23.04
1/2	58	114	106	90	60	38	466
	47.93	49.78	50.96	47.62	46.88	47.50	48.80
3/4	34	66	52	56	39	22	269
	28.10	28.82	25.00	29.63	30.47	27.50	28.17
Total	121	229	208	189	128	80	955

（表４７）

問１１：生理痛のため、離職や転職 Q11 AGE

	20-24	25-29	30-35	35-39	40-44	45-50	Total
Yes	4	8	9	12	4	7	44
	0.81	1.12	1.19	1.64	0.55	0.93	1.05
No	489	709	747	720	725	747	4137
	99.19	98.88	98.81	98.36	99.45	99.07	98.95
Total	493	717	756	732	729	754	4181

Frequency Missing = 49

（表４８）

問１２：生理痛のため医療機関への受診

Q12 AGE

	20-24	25-29	30-35	35-39	40-44	45-50	Total
Yes	40	107	116	93	80	72	508
	8.13	14.92	15.32	12.69	11.02	9.56	12.16
No	452	610	641	640	646	681	3670
	91.87	85.08	84.68	87.31	88.98	90.44	87.84
Total	492	717	757	733	726	753	4178

Frequency Missing = 52

（表４９）

問１２－１：診断

Q12_1_1 AGE

		20-24	25-29	30-35	35-39	40-44	45-50	Total
	Dysfunctional	27	65	56	41	24	25	238
		67.50	60.75	48.27	44.08	30.00	34.72	
Multiple Ans.	Endometriosis	10	20	35	32	26	13	136
		25.00	18.69	30.17	34.41	32.50	18.06	
	Adenomyosis Uteri	0	2	4	2	5	5	18
		.	1.87	3.45	2.15	6.25	6.94	
	Leiomyoma Uteri	0	8	6	20	29	25	88
		.	7.48	5.17	21.51	36.25	34.72	

Ovarian Cyst	1	11	14	10	10	11	57
	2.50	10.28	12.07	10.75	12.50	15.28	
Others	2	5	11	3	6	3	30
	5.00	4.67	9.48	3.23	7.50	4.17	

（表５０）

問１２－２：治療 Q12_2

	20-24	25-29	30-35	35-39	40-44	45-50	Total
Surgical therapy	1	10	17	18	16	21	83
	2.50	9.35	14.66	19.35	20.00	29.17	
Medical therapy	30	64	73	52	38	37	293
	75.00	59.81	62.93	55.91	47.50	51.39	
Other	3	17	20	15	18	8	81
	7.50	15.89	17.24	16.13	22.50	11.11	

（表５１）

問１２－３：治療結果 Q12_3

	20-24	25-29	30-35	35-39	40-44	45-50	Total
Easier	19	36	43	35	25	34	192
	51.35	40.91	43.88	46.05	38.46	55.74	45.18
No change	18	50	53	39	37	26	223
	48.65	56.82	54.08	51.32	56.92	42.62	52.47
Worse	0	2	2	2	3	1	10
	0.00	2.27	2.04	2.63	4.62	1.64	2.35
Total	37	88	98	76	65	61	425

（表５２）

問１３：周囲の理解 Q13

	AGE						
	20-24	25-29	30-35	35-39	40-44	45-50	Total
Very much	52	66	64	59	52	43	336
	10.61	9.18	8.56	8.10	7.18	5.84	8.11
if anyting, Yes	274	386	358	361	311	328	2018
	55.92	53.69	47.86	49.59	42.96	44.57	48.69
if anyting, No	113	161	180	158	170	176	958
	23.06	22.39	24.06	21.70	23.48	23.91	23.11
Hardly	51	106	146	150	191	189	833
	10.41	14.74	19.52	20.60	26.38	25.68	20.10
Total	490	719	748	728	724	736	4145

Frequency Missing = 85

（表５３）
問１４：男性・女性の理解 Q14

	20-24	25-29	30-35	35-39	40-44	45-50	Total
Men	13	26	25	35	10	20	129
	2.64	3.63	3.33	4.80	1.39	2.74	3.12
Women	341	474	474	427	421	441	2578
	69.31	66.11	63.12	58.57	58.31	60.41	62.26
Men and Women	138	217	252	267	291	269	1434
	28.05	30.26	33.56	36.63	40.30	36.85	34.63
Total	492	717	751	729	722	730	4141

Frequency Missing = 89

初経年齢別集計　ｎ＝４２３０

数字：上段は頻度（人）、下段は各年齢グループ内の％（欠測例は含まず）

（表５４）
問５：月経の順・不順 Q5

	Q3A - 11	12	13	14	15-19	Total
Regular	598	975	720	499	152	2944
	73.46	71.69	70.18	67.52	62.81	70.41
Irregular	174	313	260	204	73	1024
	21.38	23.01	25.34	27.60	30.17	24.49
No Mens	42	72	46	36	17	213
	5.16	5.29	4.48	4.87	7.02	5.09
Total	814	1360	1026	739	242	4181

Frequency Missing = 49

一般用

厚生省厚生科学研究子ども家庭総合研究事業

(1)～(4)

地点番号（3桁郵便番号）：　(5)～(7)

女性の健康に関する疫学調査

調査票

このアンケートは、一般に女性において、生理痛などが日常の仕事にどの程度支障をきたしているかを調べるためのものです。調査は、東京大学医学部産科婦人科学教室 教授 武谷雄二を中心とした厚生省厚生科学研究班が行っています。

調査結果は、厚生省に報告された後に公表され、女性の労働条件の改善など国の行政などに役立たせたいと考えています。アンケートは匿名で個人が特定されることなく、プライバシーが完全に守られるようになっていますので、できるだけありのままを記入してください。尚、本研究は、東京大学 大学院医学研究科・医学部 研究倫理審査委員会の承認のもと、実施しています。

是非とも、皆様のご協力をお願いいたします。

【ご記入に際してのお願い】

1）お答えはあてはまる番号を○で囲むか、□□ 内に数字をご記入下さい。
2）ご記入は、質問の番号や矢印(→)の指示にそってお願いします。
3）ご記入は、鉛筆または、黒・青のペンかボールペンでお願いします。
4）回答に迷う場合は、あなたのお気持ち・お考えにできるだけ近いものを選ぶようにして下さい。
5）10月末日までに同封の返信用封筒にて(切手不要)ご返送ください。
6）なお、記入上おわかりにならない点などがありましたら、下記までお問い合わせ下さい。

アンケート調査についての連絡先：
〒113-8655　東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学医学部産科婦人科学教室　大須賀　穣
FAX: 03-3816-2017

(カラム番号)

問1．あなたの年齢は、現在満何歳ですか。 □□ 歳 (8)(9)

問2．あなたの職業について、以下の分類で、最もあてはまるもの一つに○を付けて下さい。 (10)

1．農林水産業　2．自営の商工業　3．事務職（常勤）　4．事務職（パート）
5．技術職（常勤）6．技術職（パート）7．専門職　8．医療職　9．管理職
10、専業主婦　11．学生・無職　12．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問3．初めての月経は何歳の時でしたか。 □□ 歳（頃） (11)(12)

問4．これまでに出産した回数は何回ですか。 (13)

0，なし　1．1回　2．2回　3．3回
4．4回　5．5回以上

問5．月経は、順調ですか不順ですか。
あてはまるものに○を付けて下さい。 (14)

1．順調 ──→ 「順調」と答えた方へ：
2．不順　問5-1．平均的な周期は何日ですか。
3．月経なし（妊娠中・閉経後・その他）　約 □□ 日型 (15)(16)

問6．月経は何日ぐらい続きますか。 約 □□ 日間 (17)(18)

問7．月経の量を自分でどう思われますか。 (19)

1，少ない
2．普通
3．多い

問8．月経時の痛み（下腹部痛、腰痛など）について、最もあてはまるもの一つに○を付けて下さい。 (20)

0．痛みは、ほとんどない。
1．痛みはあるが、日常生活は普通に行える。
2．痛みのために、日常生活に差し支えることがある。鎮痛剤（痛み止めの薬）を飲むと、仕事や学校を休むことはほとんどない。
3．痛みのために、日常生活に支障をきたしている。鎮痛剤を飲んでも仕事などを休む事が多い。
4．痛みのために動くのもつらく、一日中横になっている。

問９．月経時の痛みのために、鎮痛剤を使用しますか。

1．はい　(21)
2．いいえ

「はい」と答えた方へ：

問 9-1．１回の月経で何日間ぐらい鎮痛剤を使用しますか。　(22)

1．１日　　2．２日　　3．３日
4．４日　　5．５日以上　　6．たまに使用する

問 9-2．使用する鎮痛剤はどんなお薬ですか。

1．医師の処方した薬剤：　薬剤名（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）　(23)
2．自分で薬局などで購入：薬剤名（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
3．その他：　薬剤名（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問１０．この半年間で、生理痛のために、仕事・学業・家事などを休んだり、仕事量を減らしたりせざるを得なかったことが、一日でもありましたか。

1．はい　(24)
2．いいえ（１日もない）

「はい」と答えた方へ：

問 10-1．この半年間で、仕事・学業・家事などを、生理痛のため休んだのは何日間ですか。　(25)

1．休んだ日はなかった
2．休んだ日があった　→　約□□　日間　(26) (27)

問 10-2．この半年間で、仕事・学業・家事などを、生理痛のため軽くしたり減らしたのは何日間ですか。

1．減らした日はなかった　(28)
2．減らした日があった　→　約□□　日間　(29) (30)

問 10-3．それらの日の仕事は平均して、普段の仕事のどの程度でしたか。　(31)

1．　１／４程度
2．　半分程度
3．　３／４程度

問１１．生理痛のため、仕事や学業を辞めたり転職したことがありますか。

１．ある (32)

２．ない

問１２．生理痛のため、病院・医院など医療機関で受診したことがありますか。

１．ある (33)

２．ない

「ある」と答えた方へ：

問 12-1. 何と診断されましたか。該当するものに○を付けて下さい。

１．特に異常はない　２．月経困難症　３．子宮内膜症 (34)

４．子宮腺筋症　５．子宮筋腫　６．卵巣嚢腫

７．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問 12-2. 治療は何でしたか。該当するものに○を付けて下さい。

１．手術による治療　２．薬剤による治療 (35)

３．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問 12-3. 治療によって、生理中の仕事・学業・家事がしやすくなりましたか。

１．しやすくなった (36)

２．変わらない

３．むしろ悪くなった

問１３．月経中の自分の状態について、周囲は理解があると思いますか。

１．大変理解がある (37)

２．どちらかといえば理解がある

３．どちらかといえば理解がない

４．ほとんど理解がない

問１４．月経中の自分の状態について、周囲の男性と女性のいずれから、より理解されていると思いますか。

１．男性のほうが理解がある (38)

２．女性のほうが理解がある

３．どちらも同じ

ご協力、有難うございました。

返信用封筒に入れて、10 月末日までに、そのままポストへの投函をお願いいたします。

平成12年度厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
リプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）から見た子宮内膜症等の予防、診断、治療に関する研究

分担研究報告書

2. 月経困難症等が勤労女性の就労に与える社会経済学的影響
：月経困難症等のもたらす労働損失の推計

分担研究者　群馬大学医学部保健学科疫学医学統計学　助教授　林　邦彦
研究協力者　東京大学大学院医学研究科保健経済学　教授　小林廉毅

要旨
月経困難症は勤労女性のQOLを低下させるとともに就労を妨げる因子ともなる。月経困難症を訴える女性は非常に多いことより、その社会経済学的な影響を解析することは重要である。本分担研究では、月経困難症のもたらす労働損失の推計を行った。無作為に抽出された20歳より49歳までの10000人にアンケート調査を施行し回収された4230の調査票をもとに推計した。方法として、年齢により層別化した職種別の1日あたり労働価値に、仕事を休んだ日（以下、休業日数）および仕事量を減らした日（以下、仕事減日数）を集計した数値を掛け合わせ、さらに、年齢階級別の調査対象者数と日本の女性人口を用いて、全国での労働損失金額を試算した。平成11年の人口全体で推計すると、6カ月間での労働損失額は、合計で1,890億円と推計された。内訳としては、常勤および非常勤職の労働損失によるものが763億円、専業主婦の労働損失によるものが1,127億円となっている。

目的
種々の機能的、器質的疾患にともなう月経困難症は女性のQOLを低下させ、勤労女性においては就労を妨げる因子の一つとなっている。これまでにその社会経済学的影響を分析した報告はみられず、昨今の女性の社会進出が目覚しい状況においては月経困難症等のもたらす社会経済学的損失の推計は重要な課題である。この社会経済学的損失としては、治療費、薬代、通院費などの医療にともなう損失と労働損失がおおきな比重をしめている。本研究では月経困難症等のもたらす労働損失を経済学的に推計することを目的とした。
対象
分担研究1.で回収された計4,230名からの調査票を使用した。
推計方法
労働損失の推計は、職種別の1日あたり労働価値に、仕事を休んだ日（以下、

休業日数）および仕事量を減らした日（以下、仕事減日数）を集計した数値を掛け合わせて行った。

職種に関しては、常勤の事務職および技術職（以下、常勤職）、非常勤の事務職および技術職（以下、非常勤職）、専業主婦、その他に分類した。その他の分類には、農林水産業、自営業、専門職、医療職、管理職、学生・無職が含まれる。これらの職種については、労働の価値の評価が困難であるため、今回の推計からは、除外した。調査対象者のうち、常勤職は 21.1%、非常勤職は 18.2%、専業主婦は 32.8%であり、この３種で 72.1%を占める。

常勤職および非常勤職の賃金に関しては、労働省政策調査部編「平成 11 年賃金構造基本統計調査」における一般労働者（パート除く）とパート労働者のデータを用いた。常勤職については、一般労働者の１カ月の所定内賃金と所定内実労働時間の合計を用いて、１日あたりの所定内労働時間を８時間として、１日あたり賃金を算出した。非常勤職については、パート労働者の１時間あたり所定内賃金と１日あたり所定内実労働時間を掛けて、１日あたり賃金の推定値とした。主婦に関しては、経済企画庁による「無償労働者の貨幣評価について」（平成９年）の資料における、有配偶かつ無職の女性の１人あたり年間無償労働評価額を 365 日で割って１日あたり労働評価額とした。ただし、この推計値は、平成３年の調査結果を基に推計されているため、社会における労働価値の変化を調整するため、１日あたり労働評価額に「賃金構造基本統計調査」における平成３年と平成 11 年の大学卒初任給の比率（1.10）をかけて、平成 11 年における労働評価額の推計値とした。

年齢に関しては、常勤職および非常勤職は、５才ごとの年齢層に分け、20-24、25-29、30-34、35-39、40-44、45-49 の６区分とした。主婦に関しては、労働評価額の資料にあわせるために、20-24、25-29、30-39、40-49 の４区分とした。ただしどちらの場合も 50 才の回答者に関しては、調査票配布時には 49 才であったため、49 才の年齢に含めてある。

休業日数の算出は、常勤職、非常勤職、専業主婦別に、各年齢階級について、６カ月間の休業日数別回答人数を集計した。また、仕事減日数も同様に、各年齢階級について、６カ月間の仕事減日数別回答人数を集計した。仕事を減らした場合には、減らした程度についての回答を得ているため、常勤職、非常勤職、専業主婦の各職種別に、仕事を減らしている割合に応じて、仕事を 1/4 程度にしている場合は 0.75、半分程度にしている場合は 0.5、3/4 程度にしている場合は 0.25 のスコアを与え、年齢階級別に仕事を減らしている程度のそれぞれの回答者数をウェイトにして仕事を減らしている程度の加重平均値を算出した。仕事減日数にこの加重平均値をかけて、仕事を減らしている日数とした。

集計は、常勤職、非常勤職、主婦別に、年齢階級ごとに、休業日数および仕

事減日数を合計し、さらに各職種ごとの調査対象者１人あたりの労働損失日数を算出した。また、年齢階級別の調査対象者数と日本の女性人口を用いて、全国での６カ月間の労働損失金額の試算を行った。なお、人口は平成 11 年 10 月 1 日時点の推計人口を用いている。

推計結果

資料から算出された常勤職、非常勤職、専業主婦別の１日あたり労働単価は表１に示す通りである。労働単価は常勤職では 35-39 才が最も高い値となり、非常勤職では 25-29 才、専業主婦では 30-39 才が最も高くなっている。同じ年齢層でみると、常勤職が最も高く、次いで専業主婦となっている。非常勤職は専業主婦と比較しても半額程度の単価となっているが、これは１日あたりの労働時間の違いを反映していると考えられる。

職種別、年齢階級別の休業日数および休業による損失を表２、仕事減日数および仕事減による労働損失を表３に示す。日数では、25-39 才くらいの年齢層で特に休業や仕事減が多くなっている。また仕事を減らす割合は、各職種とも半分程度となっている。

職種別、年齢階級別の調査対象者１人あたり労働損失日数を表４に示す。ここでは、仕事を休んだり減らしてたりしていない人も含めて１人あたりで算出しているため、半年間で 0.4・1.9 日くらいの労働損失となっている。休んでいる１人あたり日数では主婦の方が常勤、非常勤職よりも多い。これは主婦の労働には休日がないため、休まなければならない日が多くなるものと思われる。

日本全体での労働損失金額の試算を表５に示す。調査サンプルが日本の女性を代表していると仮定して、平成 11 年の人口全体で推計すると、６カ月間での労働損失額は、合計で 1,890 億円と推計される。内訳としては、常勤および非常勤職の労働損失によるものが 763 億円、専業主婦の労働損失によるものが 1,127 億円となっている。

表１　１日あたりの労働単価

	単位	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-50
常勤職[1]	（　円）	8,935	10,273	11,509	11,867	11,583	11,325
非常勤職[2]	（　円）	5,232	5,605	5,066	4,774	4,829	4,835
専業主婦[3]	（　円）	7,756	10,136	10,655		9,077	

1)「平成11年賃金構造基本統計調査　労働省）」における一般労働者の年齢階級別所定内賃金より算出
2)「平成11年賃金構造基本統計調査　労働省）」におけるパート労働者の年齢階級別所定内賃金より算出
3)「無償労働の貨幣評価について　平成3年推計、経済企画庁）」より大卒者初任給水準で平成11年の値を推計

表２　仕事を休むことによる労働損失　６カ月）

		単位	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-50
常勤職	・日数	（　日）	67	157	132	56	38	22
	・金額	（　円）	598,641	1,612,888	1,519,215	664,579	440,155	249,157
非常勤職	・日数	（　日）	26	10	21	91	44	38
	・金額	（　円）	136,022	56,050	106,376	434,398	212,476	183,711
専業主婦	・日数	（　日）	23	154	414		208	
	・金額	（　円）	178,395	1,560,897	4,411,078		1,887,915	

表３　仕事を減らすことによる労働損失　６カ月）

		単位	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-50
常勤職	・日数	（　日）	92	436	244	117	40	49
	・減率		0.446	0.432	0.484	0.458	0.521	0.450
	・金額	（　円）	366,971	1,936,553	1,358,336	636,394	241,313	249,723
非常勤職	・日数	（　日）	41	38	69	152	116	92
	・減率		0.542	0.538	0.442	0.510	0.488	0.474
	・金額	（　円）	116,185	114,687	154,595	369,770	273,413	210,682

専業主婦・日数	（　日）	48	398	1,198	630
・減率		0.444	0.527	0.480	0.500
・金額	（　円）	165,468	2,124,576	6,123,885	2,859,102

表４　調査対象者１人あたりの労働損失日数　６カ月）

	単位	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-50
常勤職　・日数計	（　日）	108.1	345.5	250.0	109.6	58.8	44.1
・標本数	（　人）	127	246	174	104	126	110
１人あたり日数	（　日）	0.85	1.40	1.44	1.05	0.47	0.40
非常勤職・日数計	（　日）	48.2	30.5	51.5	168.5	100.6	81.6
・標本数	（　人）	46	74	104	144	176	220
１人あたり日数	（　日）	1.05	0.41	0.50	1.17	0.57	0.37
専業主婦・日数計	（　日）	44.3	363.6	988.8		523.0	
・標本数	（　人）	27	192	645		516	
１人あたり日数	（　日）	1.64	1.89	1.53		1.01	

表５　日本全体での労働損失金額の推計　６カ月）

	単位	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-50	合計
常勤・非常勤職								
標本金額計	（　円）	1,217,818	3,720,178	3,138,521	2,105,141	1,167,358	893,273	
標本数	（　人）	493	722	760	741	734	772	
人口	千人）	4,336	4,863	4,292	3,921	3,928	4,718	
金額	百万円）	10,711	25,057	17,724	11,139	6,247	5,459	76,338
専業主婦								
標本金額計	（　円）	343,862	3,685,473	10,534,963		4,747,017		
標本数	（　人）	493	722	1,501		1,506		

人口	千人)	4,336	4,863	8,213	8,646	
金額	百万円)	3,024	24,823	57,644	27,253	112,744
						189,082

表５　日本全体での労働損失金額の推計　1年間)

	単位	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-50	合計
常勤・非常勤職								
標本金額計	(　円)	2,435,637	7,440,356	6,277,043	4,210,282	2,334,715	1,786,546	
標本数	(　人)	493	722	760	741	734	772	
人口	千人)	4,336	4,863	4,292	3,921	3,928	4,718	
金額	百万円)	21,422	50,114	35,449	22,279	12,494	10,918	152,676
専業主婦								
標本金額計	(　円)	687,725	7,370,945	21,069,926		9,494,035		
標本数	(　人)	493	722	1,501		1,506		
人口	千人)	4,336	4,863	8,213		8,646		
金額	百万円)	6,049	49,647	115,288		54,506		225,489
								378,165

平成12年度厚生科学研究費補助金＜子ども家庭総合研究事業＞

リプロダクテイブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）から見た子宮内膜症等の予防、診断、治療に関する研究報告書

研究総括者

東京大学医学部婦人科学産科学

教授・武谷雄二

分担する研究項目

子宮内膜症性疼痛の長期予後と管理法に関する研究

分担研究者
近畿大学医学部産科婦人科学講座
教授・星合　昊

研究協力者

徳島大学医学部産科婦人科学講座　教授・青野敏博
群馬大学医学部産科婦人科学講座　教授・伊吹令人
近畿大学医学部産科婦人科学講座　講師　三橋洋治
近畿大学医学部産科婦人科学講座　講師・小畑孝四郎（兼；事務担当者）

研究報告

I. 研究の目的

子宮内膜症性疼痛の、発現頻度・疼痛の程度・所見の有無および程度・治療法・再発の有無を含めた長期予後の現状、を調査し、現時点における最良の子宮内膜症性疼痛の管理法を検討する

II. 研究対象及び方法

腹腔鏡または開腹により確認された子宮内膜症症例で、Re・AFS分類による採点表の記録があり、3年以上の予後調査可能なものを対象とする後方視的研究

1994年（平成6年）に腹腔鏡または開腹により子宮内膜症を確認した症例に、症状、所見、診断、治療法、予後等の調査項目を、予め用意された調査票（別紙1）に記入し研究参加施設より収集した。なお、本研究には“日本産科婦人科学会生殖内分泌委員会子宮内膜症取り扱い規約（第２部）一治療・診療編一検討委員会”の協力を得て解析症例数を増やすことに努力した。（表1）

対象症例のうち、本研究の目的から月経痛・骨盤痛・性交時痛・排便時痛・排尿時痛などの疼痛症状を有する症例（以下；有痛症例）をもとに、統計学的解析を行った。なお本報告では、有痛症例とは程度の軽重を問わず疼痛症状を伴う例全てを含んでいるが、疼痛症状の再発例とは女性のQOLを考慮し、疼痛症状のために鎮痛剤服用を要するほど以上の症例のみを指している。

III. 研究結果

1．集積症例数と有痛症例数およびその割合。

研究参加17施設より、計606例の症例データが集積された。集積症例のうち、程度の軽重を問わず疼痛症状を伴ういわゆる有痛症例は410例（67.7％）であり、疼痛症状のない例は196例であった。

各施設毎の有痛症例の割合は48．3％・100％と施設間のかなりの開きがあった。（表1）

表1；集積症例数と有痛症例数およびその割合

	施設名	症例数	有痛症例数	有痛症例の割合
1	東北大学	58	31	53.4％
2	名古屋大学	11	6	54.5％
3	慶應義塾大学	30	20	66.7％
4	群馬大学	24	23	95.8％
5	新潟大学	27	21	77.8％

6	鳥取大学	43	31	72.1%
7	横浜市立大学	34	32	94.1%
8	旭川医科大学	84	50	59.5%
9	東京大学	42	31	73.8%
10	大阪大学	20	16	80.0%
11	長崎大学	29	14	48.3%
12	徳島大学	29	13	44.8%
13	近畿大学	75	42	56.0%
14	国立京都病院	38	30	78.9%
15	熊本大学	54	43	79.6%
16	高知医科大学	6	5	83.3%
17	大阪医科大学	2	2	100%
	合計	606	410	67.7%

2. 集積症例の年齢分布(表2)

集積症例の年齢分布は、20歳以下が9例、21歳・25歳が79例、26歳・30歳が193例、31歳・35歳が173例、36・40歳が85例、41歳・45歳が43例、46歳・50歳が18例、50歳以上が2例、記載なしが4例であり、20代後半から30代前半にピークを示した。有痛症例では、20歳以下が7例、21歳・25歳が62例、26歳・30歳が140例、31歳・35歳が109例、36・40歳が54例、41歳・45歳が28例、46歳・50歳が9例、50歳以上が1例であり、ピークは20代後半を示した。

表2;集積症例の年齢分布

	全症例	有痛症例	無痛症例
≦20	9	7	2
21-25	79	62	17
26-30	193	140	53
31-35	173	109	64
36-40	85	54	31
41-45	43	28	15
46-50	18	9	9
50＜	2	1	1
記載なし	4	0	4
合計	606	410	196

3. 疼痛症状の有無とRe-AFS臨床進行期との関連(表3)

全症例を対象に、疼痛症状の有無と、アメリカ不妊学会臨床進行期分類の関連を検討した。全症例中26例は臨床進行期分類の記載がないため別に記した。臨床進行期の期別に疼痛症状の発生頻度を見ると、1期58.6%、2期66.0%、3期64.1%、4期75.5%であった。

表3:疼痛症状の有無とRe-AFS臨床進行期との関連

Re-AFS	1	2	3	4	記載なし
有痛症例	68	35	109	182	16
無痛症例	48	18	61	59	10
合計	116	53	170	241	26
有痛症例の頻度	58.6%	66.0%	64.1%	75.5%	61.5%

4. 有痛症例の背景

1)有痛症例の未・既婚の別(表4)

集積された有痛症例の内、未婚者は136例(22.5%)、既婚者は469例(77.6%)であった。

表4;集積症例の未・既婚の別

	有痛(%)	無痛(%)	全症例(%)
未婚	106(25.9)	30(18.4)	136(22.5)
既婚	304(74.1)	166(84.7)	469(77.6)

2)有痛症例のうち既婚症例の結婚年齢分布(表5)

有痛症例のうちの既婚者304例についての結婚年齢分布は、20歳以下11例(3.6%)、21歳・25歳155例(51.0%)、26歳・30歳117例(38.5%)、31歳・35歳19例(6.3%)であり、36歳・40歳2例(0.7%)であり、41歳を過ぎて結婚した例はなかった。

表５；有痛症例のうち既婚症例の結婚年齢分布

	有痛(%)	無痛(%)	全症例(%)
≦20	11(3.6)	4(2.4)	15(0.3)
21-25	155(51.0)	77(46.4)	232(49.4)
26-30	117(38.5)	69(41.6)	186(39.6)

31-35	19(6.3)	15(9.4)	34(7.2)
36-40	2(0.7)	0	2(0.4)
41-45	0(0)	1(0.6)	1(0.2)
合計	304(100)	166(100)	470(100)

3)有痛症例の既往妊娠分娩回数(表6)

有痛・既婚の症例304例を対象に、既往妊娠・経産回数を調査した。未妊婦は192例(63.1%)、経妊未産婦40例(13.2%)であり、未産婦は 76.3%におよんだ。1回経産婦は37例(12.2%)、2回経産婦は28例(9.2%)、3回経産婦は7例(2.3%)であり、4回以上の経産婦はいなかった。

表6;集積症例の既往妊娠分娩回数

	有痛(%)	無痛(%)	全症例(%)
未妊婦	192(63.1)	98(59.0)	290(61.7)
経妊未産婦	40(13.2)	28(16.9)	68(14.5)
1回経産婦	37(12.2)	18(10.8)	55(11.7)
2回経産婦	28(9.2)	18(10.8)	46(9.8)
3回経産婦	7(2.3)	4(2.4)	11(2.3)
合計	304(100)	166(100)	470(100)

5. 有痛症例の疼痛症状の初発年齢(表7)

疼痛症状の初発年齢は、10歳以下の症例5例(1.2%)、11歳・15歳が43例(10.5%)、16歳・20歳が59例(14.4%)、21歳・25歳が75例(18.3%)、26歳・30歳が108例(26.3%)、31歳・35歳が59例(14.4%)、36歳・40歳が38例(9.2%)、41歳・45歳が15例(3.7%)、46歳・50歳が7例(1.7%)、50歳以上が1例(0.2%)であった。

表7;有痛症例の疼痛症状の初発年齢

初発年齢	症例数(%)
≦10	5(1.2%)
11-15	43(10.5%)
16-20	59(14.4%)
21-25	75(18.3%)